

愛荘町集落営農法人における 大豆の安定生産技術の確立

湖東農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

愛荘町では過去 5 カ年間(平成 29 年～令和 3 年)の大豆平均単収が 83kg/10aと管内平均 108kg/10aより低い状況が続いています。そうした中で、法人Kおよび法人Wでは、「これまでの栽培体系をもう一度見直し、大豆で収益向上を図りたい」と改善に向けて取り組んでこられたため、当課は昨年度からJA東びわこと連携し、2 法人の大豆収量向上に向けて支援してきました。取組 2 年目となる令和 5 年度は、引き続き栽培管理支援を行いました。

【普及活動の内容】

(1)栽培計画支援

栽培開始前に、対象、JA、当課で令和 5 年産栽培の打合せをし、2 法人における現状整理と栽培方法の提案を行うことで、栽培計画の方向性を決定しました。

(2)ほ場巡回による現地支援

JAと連携し、作業のポイントとなる時期に現地巡回指導を行いました。具体的には、大豆中耕培土の実施時期、除草剤の種類と散布時期、干ばつ時の畝間かん水、病害虫防除時期や薬剤の種類等について助言しました。また、1 法人において汚損粒が長年課題となっていたことから、収穫前に収穫適期を助言するとともに汚損粒発生防止対策の資料を提供し、収穫時は立ち合い、実施状況を確認しました。



写真1 大豆収穫時の立ち合い

【普及活動の成果】

2 法人とも 6 月下旬で「ことゆたかA1 号」のは種作業が完了し、適期は種ができました。令和 5 年産大豆単収(施設荷受け数量ベース)は 1 法人で平成 29 年～令和 3 年の 5 カ年平均を上回る 172kg/10a(約 55kg/10a 増)で、汚損粒も一定の改善が認められました。一方で、別の 1 法人では、令和 4 年産に引き続き雑草害等の課題が残り、単収の向上には繋がりませんでした。令和 6 年度以降は雑草対策により重点を置いた支援を行い、さらなる収量向上を目指します。

◎対象者の意見

作業について逐次助言をもらったので、大豆の出来がかなり良く、満足している。また、汚損粒に困っておりコンバインを変えようか悩んでいたが、助言された対策によって大分改善できた。雑草対策について課題が残るためまた指導をお願いしたい。(法人K)

灌水によって雑草が繁茂してしまい残念だった。また、青立ちにも悩まされた。まだ改善点が残るため、対策を教えてほしい。(法人W)